

つがるブランド認定委員を任命

6月27日、生涯学習交流センター松の館で、市特産物をブランドとして認定する、「つがるブランド認定委員会」が発足しました。

福島市長から認定委員へ委嘱状が交付された後あいさつでは「本委員会の認定基準により出荷される農産物や加工品が高品質で、特色あるブランドで消費者に認知されるようお願いします。」と述べました。

組織会で、委員長に檜楨氏が互選され「つがる市の農業振興と地域の活性化を目指し、市の価値を推進する為、皆でまとまって全国に発信できるものを認定していきたいと思います。」とあいさつを述べました。認定者には、認定証が交付され、認定期間は3年間となります。



市長から各委員へ委嘱状を交付

《認定委員》

○檜楨 貢氏(弘前大学大学院地域社会研究科教授)



委員長の檜楨氏

○藤森 茂氏(西北地域県民局地域農林水産部次長)



副委員長の藤森氏

藤崎 浩幸氏(弘前大学農学生命科学部准教授)

平舘 稔彦氏(県農林水産部販売戦略課副参事)

大寺 久蔵氏(西北地域県民局地域農林水産部普及指導室長)

盛 久光氏(西北地域県民局地域農林水産部普及指導室分室副参事)

藤森 義人氏(あもり信用金庫木造支店長)

山下 啓次氏(イオン柏ゼネラルマネージャー)

小山内金弥氏(市物産協会会長)

社会を明るくする運動

7月3日、生涯学習センター「松の館」で第57回社会を明るくする運動が開催され、約600人の市民が参加し、地域住民の連携を強め、犯罪や非行を抑止することを誓いました。

はじめに福島市長から「犯罪や非行が生まれるのは地域社会であり、また更生を正す場も地域社会でありますので、地域の協力が不可欠であるので皆さんのさらなるご協力をお願いします。」とあいさつ、続いて向陽小学校4年の木村省吾くんが「つがる市に住んでいる一人と

誓いの言葉を述べる
木村君



作文を披露する
小田川さん



して、地域の方々と一緒に困っている人を見たら声をかけて助けるようにします。」誓いの言葉と述べました。

また、つがる地区保護司会鳴海陸奥雄会長が法務大臣からのメッセージ、つがる署八戸文憲署長が県知事からのメッセージを伝達し、第56回社会を明るくする運動で入賞した、柏中学校2年の小田川美幸さんと県BBS会長賞を受賞した育成小学校6年盛奈菜さんが作文を披露しました。

最後に、県警音楽隊の演奏とカラーガードによる演技も披露されました。

男女共同

参画推進委員に委嘱状

6月22日、市役所で、「つがる市男女共同参画推進委員」10名へ委嘱状が交付されました。

福島市長は「つがる市男女共同参画プランを基に、推進・普及の先導的な役割を担っていただきたい」とあいさつ。委員の任期は2年間で、「人間(ひと)を尊重し、思いやりと優しさにあふれるまち」をテーマに、市民・行政・企業が目指す男女共同参画を推進していきます。皆さんのご協力をお願いします。

【委員名簿】

工藤 早苗氏(木造)
工藤 みどり氏(木造)
鳳至 満氏(柏)
傳法谷 公二氏(稲垣町)
北澤 由美子氏(富沼町)
田中 誠氏(木造)
古坂 良氏(柏)
藤田 良子氏(木造)
石岡 年子氏(木造)
葛西 貢造氏(柏)

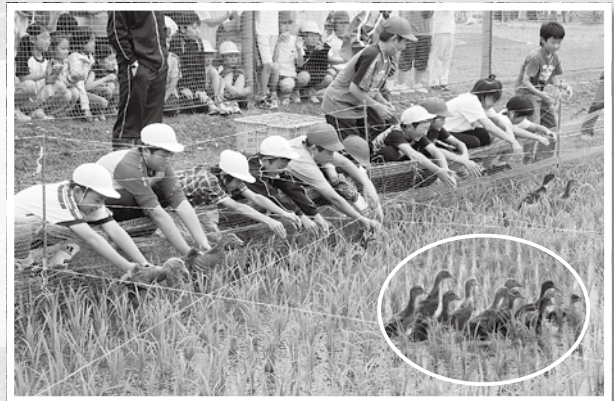


話題

アイガモでおいしい米作り

—瑞穂小学校—

6月15日、瑞穂小学校でアイガモ農法を勉強しました。
同校は「JA木造町おいしいごはんを作る会」の後援を受け米作りを行うもので、約0.5aの学校田に4・5年生の代表児童がアイガモ11羽を放しました。
怖がってなかなか触れない児童や平気で触る児童もいましたが最後は皆一緒に田んぼに放しました。
また、会員の高橋金義さんが指導を行い、児童らと一緒にこれからアイガモ達を見守っていきます。



市役所を園児が訪問

—木造保育所—

6月7日（花の日）に木造保育所の園児26人が市役所に訪れ花をプレゼントしました。
木造保育所では、花の日に合わせて自分達の為に働いてくれている人に「花」をプレゼントしようと市役所を訪れ、成田収入役らに花を贈りました。
最後に、収入役から「私達も花を見て仕事をがんばりますので、皆さんもお友達と仲良くしてください」と話し、お礼にプレゼントを渡しました。

自転車の正しい乗り方を学んで

—穂波小学校—

6月10日、自転車講習会が穂波小学校で開かれました。
講習会は、交通安全母の会柴田支部が主催したもので、約50人の児童が参加しました。
始めに、校庭で自転車の専門家による安全点検が行われ、続いて、つがる警察署員による「正しい乗り方と運転技術」の講習会が行われました。
講習会後児童らは「交通ルールを守り、自転車を乗ります」と誓いました。



健康ウォーキング②

—稲垣町—

6月19日、第2回目の健康ウォーキング教室が開催され晴天の下、目標に向かい元気にウォーキングを楽しみました。
稲垣ウォーキングの会のメンバーや森田町からの参加者34名は、稲垣老人福祉センターをスタートし、岩木川河川公園の1周1.5kmのコースを3周する事を目標にしてマイペースを保ちながら、みんなでウォーキングを楽しんでいました。
次回は、車力地区で行います。

手作りチャリティー発表会

—松の館—

6月17日、第6回チャリティー手作り演歌発表会が開催され、多くの市民が訪れていました。
この発表会は「みんなに愛唱される歌を地方から」と題して歌好きの仲間が集まり、親睦を深め、地元活性化に貢献しようといわれています。
また、売り上げの一部をつがる市教育委員会に寄付し、小林教育長は「教育のために使わせていただきます。」とお礼を述べていました。



街の



不法投棄ごみの撤去作業

—牛潟町—

6月5日、牛潟町驚范地内に不法投棄されている廃棄物の回収作業が行われました。

市職員が重機と手作業により、約100㌔に渡って不法投棄されていた廃棄物を分別しながらトラックに積み込み、約30㌔を回収しました。

不法投棄ごみは自転車やストーブ、洗濯機や農業資材などの家庭ゴミが大半を占めており、市では今後も監視活動を強化していきます。

バランスの取れた朝食づくり

—豊川小学校—

6月16日、10組の親子が参加した「親子クッキング教室」が開催されました。

稲垣給食センター栄養士の成田真由美先生の指導により、子ども達は普段使い慣れない包丁で食材を切ったり、フライパンで炒めたり、牛乳を使った朝食3品を作りました。

また、あおり食育宣伝隊の松江利英さんが、「食を通して子どもたちの健康を考える」と題して、はしの正しい使い方等について講話を行いました。



小学校で寄席を楽しむ

—向陽小学校—

6月27日、向陽小学校で鑑賞教室「わんぱく寄席」が開催され、落語家の入船亭扇好(いりふねていせんこう)さんと曲芸人の鏡味仙三(かがみせんざ)さんの名人芸を鑑賞しました。

落語の楽しみ方を子ども達が体験し、6年生から代表児童4人がうどんをすすりながら食べる場面や餅を食べて喉に詰まらせる場面などを高座に座り披露していました。

児童らは初めての落語の世界を堪能していました



生涯スポーツを楽しむ

—つがる地球村—

6月6日、森田町の地球村で第2回つがる市親善グラウンド・ゴルフ大会が行われました。

開会式では小林教育長が「気力・集中力を持続するためにスポーツを楽しんでください」とあいさつし、市内外から参加した432名の選手は、日頃の練習の成果を発揮しながら、優勝をめざし24ホールを周り、好プレーを連発させ、楽しい1日を過ごしました。



春のバラと絵画を堪能

—木造中央公民館—

6月12日、木造中央公民館で春のバラ展と絵画展が開催されました。

木造バラ愛好会と木造チャールル会が毎年開いているもので、約100種250本のバラと20点の絵画が展示されており、訪れた愛好家も出来栄のすばらしさに感心していました。

また、珍しい「ブラックティー」という品種のバラも展示されており訪れた人の目を楽しませてくれていました。

